

■科目名

教育制度論

Educational System

■開設年度

2021

■区分

教職理解科目

■学科名

教育学

■分類

■単位数

2

■履修期

1期

■履修条件

■開講期

前後

■担当教員

濱沖敢太郎

■代表教員名及び連絡先等

khamaoki@edu.kagoshima-u.ac.jp

■オフィスアワー

月曜3限

なお、事前にメール等で予約をとることが望ましい。

■講義の概要（目的・内容・方法）

歴史的に日本の教員は海外よりも職務の範囲が広く、それゆえ教科教育以外の様々な専門知識を要求されてきた。その一方で、広範囲な職務の実態や専門知識に対するさらなる要求が、近年の教育改革の一因となっている。本講義では、教育政策の中核を占める教員政策に注目し、教員の社会的地位や職務が、様々な専門家や市民との関係においてどのように位置づけられ、変化してきたのかという問題への理解を深めることを目的とする。

なお、本講義は「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を扱う科目である。

本授業は、原則、15回の授業をすべて「遠隔形式（リアルタイム）」で実施する。学生の進捗によっては、一部を「課題提示による授業」に変更する場合があるが、都度授業中に指示する。

■授業の到達目標及びテーマ

- (1) 現代の教員政策とその歴史的背景について、概要を説明できるようになること。
- (2) 学校運営における教員とその他の専門家や保護者等との協力関係を説明できるようになること。
- (3) 上記2つのテーマについて、適切な資料を参照・引用できるようになること。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション（1）グループワークに向けた準備作業
- 第2回 オリエンテーション（2）論証型レポートの作成方法
- 第3回 オリエンテーション（3）練習レポートの遂行とグループワークの練習
- 第4回 レポート1の草稿チェック（1）学校教育と社会の変化
- 第5回 レポート1の草稿チェック（2）教師の成長と法制度
- 第6回 レポート1の二稿チェック（1）グループワークを踏まえたレポート修正
- 第7回 レポート1の二稿チェック（2）グループワークを踏まえたレポート修正
- 第8回 レポート1の三稿チェック：学術マナーとしての引用
- 第9回 レポート1のふりかえり：レポートの相互比較
- 第10回 レポート2の草稿作成：論文の検索方法を整理する
- 第11回 レポート2の草稿チェック（1）学校と地域・行政の連携
- 第12回 レポート2の草稿チェック（2）学校安全の目的と課題
- 第13回 レポート2の二稿作成：グループワークを踏まえたレポート修正
- 第14回 レポート2の三稿チェック：出典の確認方法について考える
- 第15回 全体のふりかえり：「論文の作り方」をあらためて考える

なお、本講義は期末試験を行わず、2回のレポート提出を以て成績評価を行う。

（授業実施方法）

第1回：Zoom

第2回以降：主にTwitterを使用する。

詳細はmanabaでの事前案内と初回オリエンテーションにて説明する。

■授業外学習（予習・復習）

この授業は、授業時間外のレポート作成及び修正作業を前提に進行する。このため、オリエンテーションでの指示に従って適宜、予習復習を行うこと。

■受講要件

■成績の評価基準

主にレポート（50点×2回）で評価する。
 加点減点の詳細については、初回オリエンテーションで説明する。

■教科書・参考書

戸田山和久，2014，『新版 論文の教室』NHK出版。

■教師としての資質能力に関するチェック項目

1. 教職の意義（使命感・倫理観等）に関する理解

【A教職の理解】教職の意義と役割を理解し、教育的愛情に支えられた使命感や職責感を持っている

2. 教育の理念、制度、歴史等に関する理解

【A教職の理解】教育の理念を理解し、教育の制度や歴史・思想に関する基礎的な知識を身に付けている

4. 学校経営およびその課題に関する理解

【A教職の理解】学校経営およびその課題（危機管理等）に関する基本的な知識を身に付けており、学校運営の在り方等について構想することができる

6. 保護者・地域社会との連携力

【B連携協働力、自己改善力の育成】学校と家庭や地域社会との連携・協力の在り方について、基本的な理解を深め、自ら連携・協力しようとする態度を身に付けている

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており、それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

16. 情報収集力、分析力、活用力

【D構想力、展開力、評価力等】情報を収集し、整理・分析することを通して、その情報を活用していくことができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中、9回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

第1回のオリエンテーションにおいてグループ決めを行うので、欠席する場合は必ず事前に連絡すること。追加で履修をする場合も、決まった時点で教員宛に連絡をすること。